

貸借対照表

決算時の資産や負債状況が分かります

市が保有している施設や現金、債権などが年度末でどのくらいあるか、また、そのために使われた財源を示したもので、どのように資金が調達され、その資金をどのように活用しているのかが分かるようになっていきます。

借方と貸方が同額でバランスが取れていることから、バランスシートともいわれます。

貸借対照表

総資産1,000万円の家庭の家計に例えると…

借方

有形固定資産 ● 856万円

家、土地、車、テレビ、洗濯機、冷蔵庫など

投資的資産 ● 64万円

養老保険、住宅積立預金など

流動的資産 ● 80万円

現金、普通貯金など

資産合計 1,000万円

貸方

負債 ● 199万円

住宅ローン、自動車ローンなどの残高

純資産合計 ● 801万円

今までに資産形成に使った給料、親からの援助など

負債・純資産合計
1,000万円

■ 有形固定資産

これまでに学校や道路などの建設事業に使われたお金の総額です。道路や建物などの建設費は、価値を見直す減価償却をしています。

また、土地代は購入時点の価格で計上しています。

■ 投資的資産

関係団体への出資金やまちづくり基金、福祉健康基金などに蓄えているお金です。

■ 流動的資産

現在持っている現金などのほか、必要な時にすぐに現金化することができる基金、市税など市に納めてもらうお金のうちで、まだ収入されていないものも含まれます。

■ 平成23年度

高山市の普通会計

借方

有形固定資産

学校、道路、橋、市庁舎など

2,508億円

売却可能資産

7億円

投資的資産

基金（固定的なもの）、出資金など

186億7千万円

流動的資産

現金預金、基金（現金化が容易なもの）、未収金（税など）

236億4千万円

計

2,938億1千万円

市民1人あたりの

借方

有形固定資産

売却可能資産

270.8万円

投資的資産 20.1万円

流動的資産 25.5万円

資産合計 316.4万円

借金対照表を読む

借金は貯蓄の約1・26倍

これまで市では、2938億円の資産を形成しています。財源の内訳として、2354億円は、これまでの世代が負担したもので既に支払いを済ませており、残り584億円は、将来世代の負担として今後、債務の支払いをしていくこととなります。

将来の支出に対する貯蓄状況としては、基金の積み立てが359億円あり、前年度と比較して32億円増加しています。

それに対して借金は、451億円の残高があり、貯蓄の1・26倍の借金があることとなります。なお、借金の残高は前年度と比較して32億円減少しています。